

さんいん 企業 物語

SAN-IN
COMPANY STORY

三

栄

3 PB商品開発

【会社概要】
所在地 松江市玉湯町湯町1554-2
電話番号 0852(62)2780
営業種目 健康食品・化粧品等の卸小売業
代表取締役社長 坂田年彦
従業員数 7人



茸源を愛用する利用者に近況を尋ねる坂田美津江会長。月に一度は電話や対面でフォローし続けている
=松江市玉湯町湯町、三栄本社

シイタケ菌糸体培養培地抽出物（LEM）をベースにした健康食品「茸源」を主力に据えて成長を遂げてきた(株)三栄（松江市玉湯町湯町、坂田年彦社長）。エビデンスを丁寧で紹介する勉強会の開催や、利用者目線に立った価格設定などで次第に顧客を増やし、創業から7年後の1986（昭和61）年には社長夫妻と事務員1人だった会社に企画と営業を担当する女性社員が加わった。のちに3代目となる坂田美津江（72）だ。

商品と会社に深い信頼

一部の悪質な販売会社による被害が表面化し始めていた当時、健康食品に対するイメージは決して良くはなく、就職優先で入社を決めた美津江もその一人だった。そんな中、自社の商品に対する強い信頼を抱くようになったきっかけは、営業担当と

して初めて接した3人の利用者だった。

肝臓がんを患っていた60歳代の男性は当初、大量の腹水で腹部が大きく膨らんでいた。しかし茸源の飲用開始から1カ月後の訪問時に見たのは、腹水が自然に抜け、楽しそうに孫と遊んでいる姿だった。「悪化している」と思っていた恐る顔を出したら、随分お元気で驚きました」と美津江。男性は抗がん剤治療をしながら茸源を飲み続け、2、3年後にはがんが消失した。

同様に末期の肺がんでせき止まらなくなった30歳代後半の女性や、上顎がんの切除手術をしても余命2年と言われた男性患者の回復も目の当たりにした美津江は次第に茸源の効果を肌で感じるようになっていった。三栄



初代奥村恒雄氏（左）と2代目の桑田和子氏
=1989年

では、茸源の利用者に対し、1カ月ごとに面会や電話でフォローし続ける。そのため経過がよく分かり、顧客との関係性も築くことができた。

経営者にも信頼を置けた。創業者の奥村恒雄の口癖は「うそをつくな」「得より損を取れ」。営業先で質問に答えられない時は、販売元に所属する研究者に尋ねて学びを深め、顧客にフィードバックすることを求められた。利益よりも顧客の体調を第一に考え、真摯に接する奥

ネット販売の急増で危機感 新商品「ハイパワー」が誕生

村らの姿勢にひかれ、美津江は働き続けることを決めた。

野田食菌工業も協力

商品自体の性能だけでなく、丁寧に関係を築いて顧客をケアする営業スタイルが口コミ効果を生み、87（同62）年上半

期には茸源の月平均の売り上げがレギュラー換算で1万本超えを実現。その後も躍進を続け、2007（平成19）年には同4万2千本を記録した。三栄の売り上げ本数は当時、茸源を取り扱っていた全国各地の店舗と比べ飛び抜けていた。奥村はLEMの生みの親である野田食菌工

業（千葉県野田市）の飯塚千代吉に茸源の人気を直接伝えようと美津江を連れて遠路、誕生の地へ。飯塚氏の喜びようは想像以上で、奥村は一層販売に力を入れている。

業者が出始めるように。将来の危機を察知した2代目桑田和子は、PB商品の開発を企画。2006（同18）年、ニゲロオリゴ糖を加えて従来品より飲みやすくなった高濃度濃縮タイプ

の茸源ハイパワーLEMが誕生した。長年高い売り上げ実績を誇ってきた三栄だからこそ、製造元である野田食菌工業も協力を惜しまなかった。

二人の創業者から継承

順調な業績を続けていた最中の11（同23）年、桑田が体調を崩した。末期がんから生還し、77歳まで精力的に生きた初代のパートナーであり、利用者に寄り添って茸源を広めてきた優秀なセールスマンソンは、長年共に茸源の営業に注力してきた美津江に後継を打診。美津江は戻込みしつつも、「30年以上のお付き合いがあるお客さまたちを見放すわけにはいかない」として12（同24）年、代表取締役就任した。

しかし、家族のような存在だった桑田の体調管理を担いながらの経営は想像以上に難航し、継続的に利用する顧客のフォローが精一杯という日々が続いた。一方で健康食品に対する法規制は年々厳格化。03（同15）年施行の健康増進法では、医薬品的な効能効果をうたうだけ

でなく、暗示的に効果を連想させるキャッチコピーや成分説明も規制するなど、健康食品を取り扱う企業にとって非常に難しい時代となってきた。

3代目を引き継いで約10年が過ぎた23（令和5）年、自宅のため息をつく美津江に声を掛けたのが長男の年彦（43）だった。「ホームページでの情報発信くらいなら手伝えるよ」。アトピー性皮膚炎で悩んでいた幼少時から茸源の世話になっていた年彦にとって、三栄のこの局面を放置することはできなかった。

（文中敬称略）

次号に続く
（フリーライター・門脇奈津子）



茸源の製造元、野田食菌工業（株）を訪れ、LEMの生みの親である飯塚千代吉氏（手前右）と対面した奥村恒雄氏（同左）
1987年、千葉県野田市



幼少期から三栄の健康食品を愛用してきた坂田年彦社長＝松江市玉湯町湯町



三栄が開発したPB商品「茸源ハイパワーLEM」は2006年から販売を開始。ニゲロオリゴ糖を加えて従来品より飲みやすくなったこともあり、現在一番人気の商品だ